



- 1 総点検はドローンの時代！
- 2 **羅針盤** 予想外のことに動揺しない
- 4 躍進が考える木材と日本文化 ⑤
- 6 お風呂場の安心・安全の必需品
- 7 住宅展示場を考える

総点検はドローンの時代！



すっかりおなじみになりました「ドローンを用いた空撮による屋根、外壁、防水箇所の点検」は、大好評をいただいております。ドローン点検のメリットは様々にあります。

まず、その場で一緒に屋根・外壁の撮影画面を確認できます。お施主様も点検画面を確認できるため、安心と納得を提供できるのです。また、画面を見ながら細かいところまで確認ができます。搭載したカメラのズーム機能を活用することによって、詳細な確認が可能だからです。さらに、足場を組むこともなく、高所での作業が必要ないので短時間で点検できます。屋根に上らないので、屋根材を傷めることもありません。

各種対策も万全

ドローン操作を安全・確実なものにするために、各種センサーを活用し、万全な衝突防止対策を実施しています。そして、トラブル発生に備えて、保険の完備をはじめサポート体制も確立しています。対人・対物の保険として、万が一の事故に備え、対人・対物とも1億円まで補償対応いたします。

ドローンによって、建物の定期メンテナンスも容易になり、点検も当日で完了します。まさに住宅の総点検はドローンの時代です。躍進までお気軽にご依頼、ご相談ください。

予想外のことに動揺しない



一寸先は闇

今年1年を振り返ってみて思うことは、予想外のことが多すぎた1年だったという印象です。夏季の異常な暑さは、数年来の猛暑だけでなく、観測史上第1位だったなどが各地で報告されました。

政治の世界では、10月に実施された総選挙で連立与党が過半数割れする大敗を喫し、11月のアメリカ大統領選挙では、ドナルド・トランプ氏が圧勝するなど、専門家の事前の予想を覆す波乱がおきました。

また、日常生活においては、いわゆるネットで募集した人間に強盗させる「強盗のアルバイト」まで登場した始末です。アルバイトで強盗されたらたまったものじゃありません。これまでの常識では考えられないことです。

まだまだ枚挙に暇(いとま)が無いほど驚くような事例はありましたが、改めてはっきり感じたことは「一寸先は闇」だということです。明日のことはおろか、1時間先のことさえ確たる保証はないのです。

先見性を見極める訓練

我が躍進でも採用している教育プログラム「3KM 生涯幸福設計」の3KMとは、個人、家庭、会社の頭文字Kと、目標(Mark)、管理(Management)、意欲(Motivation)の頭文字Mを合わせたものです。そしてそれは、中国の書物『大学』において示されている「修身齐家治国平天下」に由来するものです。

文字通り「自分の身を修め家庭をととのえ国家を治め天下を平らかにすること」(故事成語を知る辞典より抜粋・要約)ですが、天下を平定するにはまず国を治め、国を治めるには自分の家庭・家族関係をきちんとし、そのためには自分自身が身を修めなければならないとしているのです。

この考えは、現在の「一寸先は闇」の浮世でも、変わることなく自己を鍛え磨かなければ世の中を変えられるような大業を成し遂げられないという教えなのです。

まず、自分に力をつければ家庭は安定してきます。そして、そういう人たちがどんどん増えていけば社会を治めることができます。最終的にはグローバルな平和が実現できるということです。

これには、いわゆる前例主義は一切通じません。「以前こうだったから、今回の場合も同様に対処できる」などというのは通用しないのです。蓄積した経験を現在の目の前の課題にどのように賢く的確に応用し対処するかが問われます。

そして、「躍進 5 原則 360 度皆 happy」「自他共幸福実現」並びに「段階的目標設定とPDCA サイクルを活用した行動計画の重要性」を認識・実行することによって、先見性を見極める訓練ができるのです。

しかしこれは、大抵の人が忘れがちになるものです。営業をするにしても毎月目標未達になってしまう人は行動計画が無い人です。そこで大事な考え方は逆算です。

目標が明確であればそれぞれ各段階をいつまでにクリアしなければならないかがわかります。その都度「これを達成するにはどうしたらよいか」と逆算し、最後まで掘り下げたところが真の出発点です。この出発点からスタートすればまず「小目標」が見え、それを達成しようとするでしょう。そしてこれこそが前述の通り先見性を見極める訓練なのです。

時代が求めるものをリサーチ

この先見性を見極めが確実なものになれば、予想外のことが起きても、多少のことでは動揺することはありません。それには時代が求めるものをリサーチすることを常に行い、「いざ鎌倉」となった時に、時代の先端を歩めるように準備しておくのです。

しかし冒頭のように、予想外のことやこれまでの常識が通用しないことが起きます。それでも時代の先端を歩めるように準備しておくのとおかないのでは雲泥の差があるのです。

ここで復習ですが、ビジネスにおける目標達成の進め方は、まず実現可能となる「小目標」の達成から積み重ねることです。1 つずつ達成していくことで自信が付き、より高い次の目標を目指すことができます。

そうして出来上がった骨太の自信は、予想外のことやこれまでの常識が通用しないことが起きても、絶対に動揺しない確固たる背骨になることを忘れないでください。

躍進が考える 木材と日本文化 ⑤



在来工法は新しい工法

よく日本型木造住宅の代名詞として在来工法を耳にしますが、これは厳密に言って、在来であっても“古典”ではないのです。古典工法では、柱にホゾ穴を刻み、そこにヌキを通して柱と柱の間を横縞状に埋め、その上に土壁を施したものです。

しかし、明治時代に日本を訪れた外国人建築家が、「日本の家には耐力壁がない」と驚き、その代わりになるものとして、筋交いを用いた在来工法が誕生し今日に至るのです。つまり在来工法は、日本の家屋の歴史から見ると新しい工法なのです。

そんな筋交いを用いた在来工法も、現在では屋内の間仕切壁に用いられる程度です。外壁は、ツーバイフォー工法以外では木質パネル工法が圧倒的な人気を博しています。柱、梁の構造部を構築した後、工場生産した木質パネルの壁をはめ込んでいく作業なので、躯体はあっという間に仕上がってしまいます。

普通に建てても問題ない在来工法

ある住宅関係者からこんな話を聞きました。1995年1月17日午前5時46分に発生した阪神淡路大震災において、一番衝撃的だった被害光景は、高速道路が横倒しになっていたものでした。

しかし、その横倒しにされた高速道路のすれすれに建てられた家は、生涯で70軒の家を建てた大工さんの作品で、なんの被害もなかったのです。ちなみにその70軒の家のうち、唯一倒壊した家が1軒だけありました。しかしそれは隣の家が倒壊し将棋倒しにされただけで、その家自体が壊れたわけではないのです。

その大工さんは、どこかのフランチャイズに加盟している工務店の社長などではなく、個人で請け負って家を造っていた方です。つまり特殊な工法を用いていないのです。

それにも拘らず、ご自身が建てた70軒の家が無傷だったというのは、「在来工法でもきちんと建てていれば問題ない」という証明になったのです。

あの当時、「在来工法は地震に弱くツーバイフォー工法は地震に強い」ということが喧伝されましたが、倒壊した在来工法の住宅は古く傷んだものばかりで、昭和40年代に日本に輸入されたツーバイフォー工法の住宅に比較すれば、弱いに決まっています。

それについては、住宅の専門家の間では誤解は解けていましたが、一般の方は未だに誤解している人が多くいらっしゃいます。倒壊した在来工法を撮影した写真をよく見てほしいのです。その周りにまだ建っている在来工法の住宅があります。まさにこれこそ、在来工法は丈夫で普通に建てても問題ないという証明なのです。

木と人間は切っても切れない関係

木造戸建て住宅を推進するある作家は、コンクリート住宅、つまりマンションに住むと早死にするという報告を本にまとめました。その根拠となったのが、ネズミによる実験でした。

木の箱に入れて育てたネズミは長生きし、コンクリート製の入れ物で育てたネズミは、体温を奪われ続けて早死にしたという実験結果をもとに話しているのですが、人間でも裸でコンクリートに直に触れれば体調を崩し早死にするでしょう。

しかしマンションの内装には、ふんだんに木材が使われているので、好きで打ちっ放しにして暮らしている人以外、木で十分に囲まれて生活しているのです。そのため、このネズミの実験結果は、そのまま受け取るわけにはいきません。

戸建てがマンションよりも人気があるのは、管理費や共益費を出さなくて済む、マンションだとベランダは共用部なので勝手に使えない、停電になったら高層階に住む人は階段での上り下りを強いられが戸建てだとそれが無い—などが理由です。

マンション派の人は、コンクリートの堅牢さと高い蓄熱性が評価に値すると言いますが、それでもフローリングをはじめ、屋内は木に囲まれながら生活しているのです。木造戸建てに住んでいる人と、健康に対する負担の差はないと言ってよいでしょう。

要するに、木のぬくもりさえ確保できれば、後はお好み次第なのです。それほどに木と人間は切っても切れない関係にあります。そんな関係を維持するため、躍進では住宅点検業務から始まる木材保存事業に注力しております。さらに水を使わずに神社仏閣の美しさを取り戻す『Air 鮑』も大いに人気です。ぜひご連絡ください。お待ちしております。

お風呂場の安心・安全の必需品 浴室換気乾燥暖房機

秋冬の定番季節商品

浴室用モデル



涼風暖房機:防水仕様

SDG-1200GB

●電源コード(棒端子接続)タイプ



脱衣室・トイレ・小部屋用モデル



涼風暖房機:非防水仕様

SDG-1200GS

●電源プラグ(コンセント差込)タイプ



生活防水

壁面取付タイプ

特定保守製品



ワイヤレスリモコン
(生活防水)



BF-861RX
BF-861RXR

NEW

天井取付
タイプ

特定保守製品

2室 同時換気

浴室にプラス1室を同時換気。
乾燥中でも他室の同時換気が可能。

NEW

12月を迎えこれからどんどん寒くなります、本格的な冬支度をするときがやってまいりました。今年は残暑が厳しいなかでも、いつの間にか秋風が吹いていて、気がついたら冬の声が聞こえているのです。

そのような中、躍進のリフォーム総合提案「足場パック」秋冬の定番商品に、早くもご注文、お問い合わせが多数寄せられています。

躍進では、ヒートショック対策用の浴室換気乾燥暖房機として、「壁面タイプ／浴室用／防水仕様」、「同／脱衣室・トイレ・小部屋用」、「同／換気扇内蔵タイプ」、「同／換気扇連動タイプ」、「天井取付タイプ」(写真参照)をご用意いたしました。

冬場の浴室の脱衣所やトイレ、廊下などで寒さにさらされると、血管の過度の収縮により血圧が急変動し、脈拍が早くなり、高齢者の場合、心疾患や脳障害などの事故につながることもあります。最悪の場合、急性心不全、心筋梗塞、くも膜下出血などによる突発的な死を引き起こします。

高齢者が入浴した時の最高血圧の変化



65歳以上の方は、たとえ健康に自信があったとしても、入浴時には注意が必要です。熱いお湯がお好きな方は、脱衣所と浴室の温度差は10度以上にならないように注意しなくてはなりません。さらに、高血圧・糖尿病・動脈硬化のある方、肥満気味の方、睡眠時無呼吸症候群や不整脈がある方、お酒を飲んでから入浴する習慣のある方などはヒートショックに要注意です。

入浴前にその都度浴室をシャワーで暖めたり、脱衣所にファンヒーターを移動したりするのは、負担が大きいままです。今や浴室換気乾燥暖房機はお風呂場の安心・安全の必需品です。室換気乾燥暖房機によって、安心・安全を確保してください。ご注文、お問い合わせは、躍進までお気軽にご連絡ください。

住宅展示場を考える 住宅コラム

コロナ禍がほぼ解消された現在、住宅展示場訪問が完全復活いたしました。ある不動産業者の調査によると、住宅の購入を検討する方の半数以上が、1度は住宅展示場を訪れているというのです。

工務店やハウスメーカーを直接訪れ、いろいろな相談に乗ってもらうケースも、全体の4割近くに上っていますが、「その後のしつこい営業攻勢が嫌で足が遠のく」という意見の方が多い現状にあります。

コロナ禍にあった時期に限らず、工務店やハウスメーカーのホームページを見たり、不動産業者が運営するポータルサイトを閲覧したり、住宅情報誌を読んだりすることは、今でも行っています。しかし、住宅はカタログショッピング感覚で求めるものではありません。やはり実際に実物に触れ、動線の間隔や間取りなどを肌で感じなくては納得できないものです。

特に、作り手の立場からすれば、女性、つまり奥様には図面を見せて説明しても、ご納得いただけないケースが圧倒的に多いようです。ましてや図面も見せず、口頭のみでの説明で理解していただくことは困難を極めます。

やはり実物を直に見て触って体感し、これなら OK、これではダメという感覚を得るには、住宅展示場が一番良いのです。もちろん各社も営業目的で、実際の住宅を展示しているので、お買い求めいただくことを目的に営業をかけるでしょう。

しかし、前述の様に、工務店やハウスメーカーを直接訪れるよりも、予約を入れ、「ちょっと見せていただけてよろしいですか」と気軽に内覧できる点が最大の魅力と言っても過言ではありません。

そこでもし気に入った業者と意気投合すれば、モデルハウスをアレンジするだけで契約が成立し、作り手と住まい手の win-win の関係が成立します。アレンジに関しても、プラン集が用意されているので、お施主様は自分のイメージに合致するものを選ぶだけでよいのです。

注文住宅の場合、住宅展示場に準じた形で、以前から人気があるのが完成見学会です。都心のお施主様だと、「見ず知らずの人にプライバシーを見られたくない」として拒否されるケースが多いのですが、郊外から地方においては、以前としてオープンで、むしろ自分が建てた家を自慢するかのよう公開していただきます。

一番大きな負担である施工後の変更を無くす

施工者からすると、一番負担が大きいのが施工後の変更です。それも、ちゃんと図面通り間違いなく施工しても、完成した家の全容を見て、「やはり屋根の色は赤が良い」などと言われることです。当然有償になることを説明しても、「そちらの説明不足が原因なんだから、無償で取り替えろ」というカスハラも珍しくありません。

しかし、住宅展示場が息を吹き返したことで、こうした不要な負担が激減したことは確かです。お客様には自社での購入を求めるのが当然の営業行動ですが、住宅展示場への来訪をお薦めすることは、住宅業界全体において先々に予想される弊害をなくすために、必要不可欠と言っても良いでしょう。

<p>株式会社 躍進</p> <p>本社 〒337-0043 埼玉県さいたま市見沼区中川106-1 ☎048-688-3388 ☎048-680-7615</p> <p>東京 〒107-0062 東京都港区南青山2-2-8 DFビル2F 営業所 ☎03-6804-2541 ☎03-6804-2542</p> <p>URL=http://www.yakushin.jp E-mail=yakushin-no1@nifty.com</p>	<p>関連会社 不動産事業 株式会社 ヤクシンジャパン</p> <p>関連会社 株式会社 First Arrows ファーストアローズ</p>	<p>事業内容</p> <p>防水工事：FRP、ウレタン、塩ビシート、 ゴムシート、アスファルトシーリング、注入、 ピンニング、シングル葺き</p> <p>木材保存工事：床下点検、シロアリ駆除 及び予防、調湿剤、床下換気 等</p> <p>塗装工事：各種塗装</p> <p>外部点検：屋根、陸屋根、バルコニー、 外壁 等診断</p>
--	---	--